

取扱注意

全学教育科目における平成18年度からの新教育課程の 検証及び平成19年度の実施に向けての検討・改正内容

平成18年12月
全学教育委員会

目 次

1. 教育効果について	1
履修登録上限設定における特例措置の基準値（案）	3
資料A-1 平成17・18年度入学者における学部	
・学科別GPA取得状況表（速報値）	4
平成17・18年度入学者における学部	
・学科別GPA取得状況表	5
資料A-2 平成18年度第1学期GPA分布表（速報値）	6
資料A-3 平成18年度第1学期学部別GPA取得状況（速報値）グラフ1	7
資料A-4 平成18年度第1学期学部別GPA取得状況（速報値）グラフ2	10
資料A-5 GPAが1.5未満の者が修得した単位数内訳	12
資料A-6 平成18・17年度第1学期科目別GPA比較表	13
資料A-7 平成18年度第1学期科目別GPA グラフ	14
資料A-8 平成18年度第1学期科目別・評価別グラフ	15
2. 履修登録上限設定単位数について	18
資料B 平成18年度第2学期履修登録単数一覧（10.18速報値）	19
履修登録上限設定単位数について（案）	20
3. 履修登録制度について	21
追加・入替え科目（旧：予備科目）の登録制度について（案）	21
登録区分名称の変更について（案）	22
4. 履修登録科目の取消しについて	23
履修登録科目の取消し制度について（案）	23
5. GPA制度について	25
6. 通算GPAに算入しない科目について	25
7. パス／ノンパス制度について	25
資料C 平成17年度 一般教育演習フィールド型集中講義	
履修者数・成績分布表	26

8. 「特別講義」の取り扱いについて	27
特別講義の取り扱いについて(案)	27
9. 「一般教育演習」の開講計画について(除く集中講義)	28
一般教育演習の開講・取り扱いについて(案)	28
資料D-1 一般教育演習履修者数5名以下の科目一覧	30
資料D-2 一般教育演習履修者統計表	32
平成17・18年度一般教育演習履修登録状況	34
10. 一般教育演習と特別講義の履修調整について	35
一般教育演習と特別講義の履修調整について(案)	35
11. 大講堂で行なう授業の履修調整について	36
大講堂で行なう授業の履修調整方法について(案)	36
12. 抽選に関する取り扱いについて	37
抽選科目の実施について(案)	37
抽選科目の取り扱いに関する事項について(案)	38
資料E 希望順位決定率	39
13. 英語単位「優秀認定」制度	40
14. 英語Ⅲ及びⅣの抽選制度	40
15. 翌期再履修の制度について	40
参考資料：平成18年度からの新教育課程	
・単位の実質化に関するアンケート(教員向け)	41

1. 教育効果について

検証内容

- 単位の実質化
- 履修登録単位数の上限設定

P4 資料A-1：平成17・18年度入学者における学部
・学科別GPA取得状況表（速報値）

資料A-1は、各学部・学科別に平成17年度入学者と平成18年度入学者のGPAの平均値を比較している。

比較対象とした16学部・学科中12学部・学科のGPAが上昇し、全学部の平均値においても17年度1学期2.23に対し、18年度1学期2.35となり、0.12の上昇となっている。

P6 資料A-2：平成18年度第1学期GPA分布表（速報値）

資料A-2は、資料A-1のGPAの値の分布表である。

履修登録単位数における特例措置としたGPA2.30以上（網掛け部分）の該当者は、2602人中1468名で56.42%となっている。

全体のおおよそ20%に該当するGPA値は2.90台の19.10%，おおよそ30%に該当するGPAの値は2.70台の29.13%，おおよそ40%に該当するのは2.50台の43.12%となっている。（表中朱書き部分 該当者累計の値を参照）

P7～P9 資料A-3：平成18年度第1学期学部別GPA取得状況（速報値）グラフ1

資料A-3は、資料A-2を基にGPAを学部別にグラフ化したもので、特例措置の基準値とした（全体の56.42%）GPA2.3台を赤で表記している。

P10～P11 資料A-4：平成18年度第1学期学部別GPA取得状況（速報値）グラフ2

資料A-4についても、資料A-2を基にGPAを学部別にグラフ化したものであるが、GPAの値が高い「3.0から4.0」及びGPAの値が低い「0から1.5」をひとまとめにして表示している。

P12 資料A-5：GPAが1.5未満の者が修得した単位数内訳

資料A-5は、資料A-2を基にGPAが1.5未満となっている者が修得した単位数の分布である。この分布から、修得単位数が10単位以下の者については、修学に関して特別な指導を必要としている者であると推察する。

※ただし、この中には既修得単位の認定を受けたことにより修得した単位数が少ない者も含まれている。

P13 資料A-6：平成18・17年度第1学期科目別GPA比較表

資料A-6は、科目別の評価から比較したGPAである。(履修者が5名以下の科目は除外している)平成17年度、平成18年度の両年度とも開講し、両年度ともデータの有する科目を比較すると、42科目中29科目においてGPAが上昇していることが分かる。

P14 資料A-7：平成18年度第1学期科目別GPA グラフ

資料A-6における平成18年度の評価をグラフ化したものである。

P15～P17 資料A-8：平成18年度第1学期科目別・評価別グラフ

資料A-7における科目別の評価(秀～不可)についてグラフ化したものである。

科目間のバラつきはもとより、17ページにある全科目平均と、9ページにある資料A-3の全学部平均を見比べと相関を知ることができる。

実績からの結果

資料A-1で示すGPAが平成17年度よりも0.12上昇したということは、「単位の実質化」「履修登録単位数の上限設定」による成果の現れの一端であると考えられる。

P41～P45 参考資料：平成18年度からの新教育課程

・単位の実質化に関するアンケート(教員向け) 参照

平成19年度に向け検討した事項

履修登録上限設定における特例措置の基準値（学期GPA2.30以上）について

GPAが平成17年度よりも0.12上がった一因に特例措置を設けたことによる効果もあると考察することから、平成19年度においても特例措置を取り入れる。ただし、基準値に当たる学期GPA2.30以上については、学部全体のGPAの平均が2.35であること。また、上位50%に該当するGPAが2.40台となっていることから、現行の基準値2.30を引き上げることについて検討し、次のとおり取り扱うこととする。

履修登録上限設定における特例措置の基準値（案）

現 行	変 更
基準値：全学統一「学期GPA2.30」	基準値：全学統一「 <u>学期GPA2.40</u> 」 対象学生： 平成19年度入学者より適用する。ただし18年度入学者は現行とおり「2.30」とする

また、次の事項については引続き検討する。

- 1) 時限的な措置として取り入れている「特例措置」の必要性について。
- 2) 特例措置の基準値と全学平均値の相関について。
- 3) 特例措置を取得したGPAの段階別に取り入れる制度について。
例：2.40以上なら2単位，2.8以上なら4単位，3.0以上なら6単位

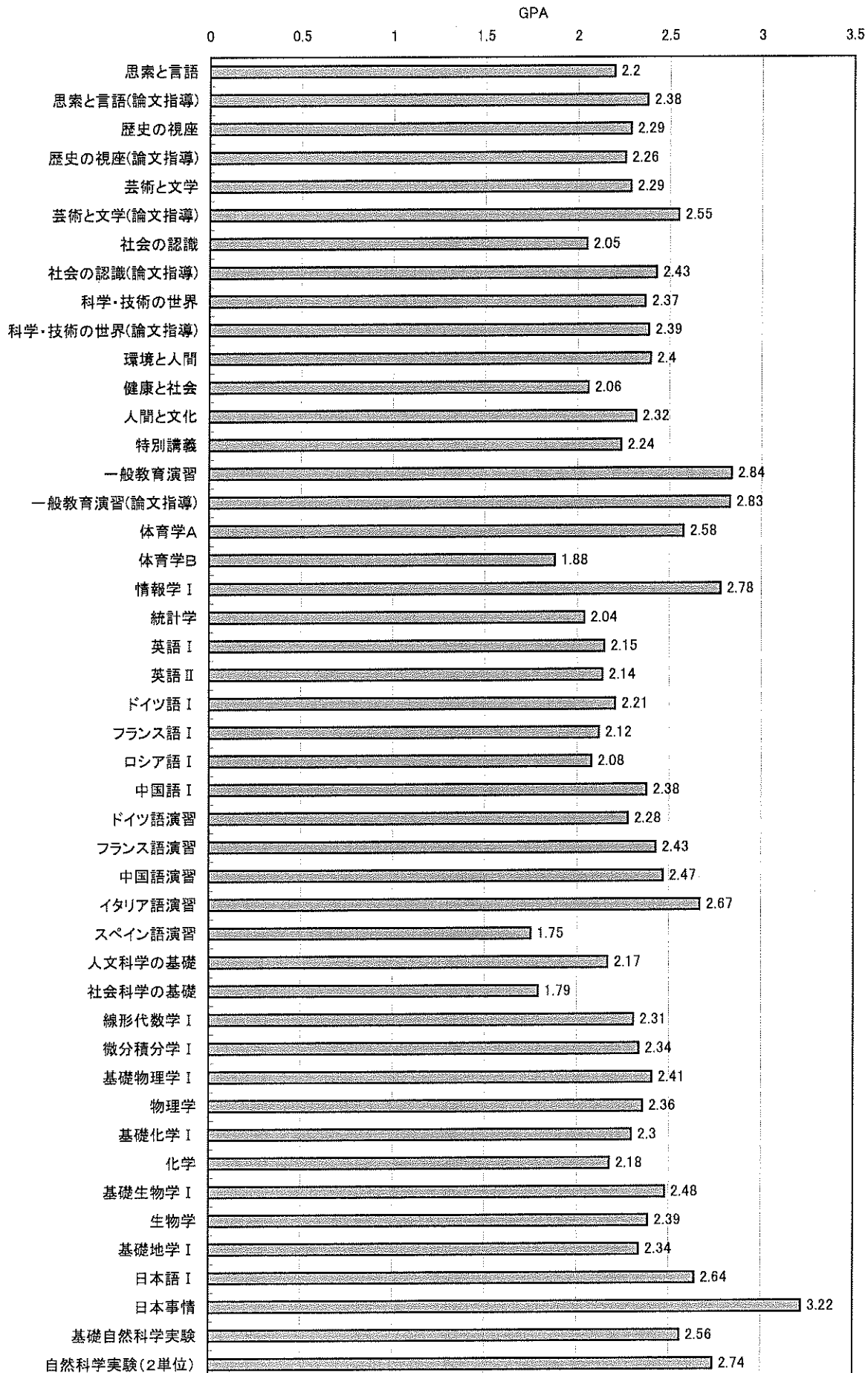
4頁～12頁：資料A - 1～A - 5は、Web公開せず。

平成18・17年度 第1学期 科目別GPA比較表

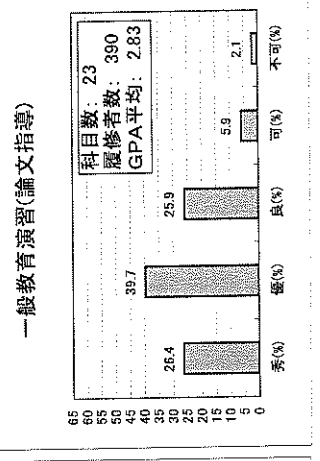
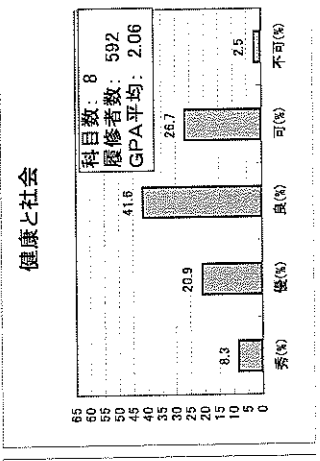
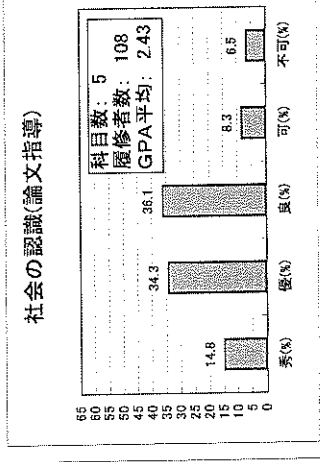
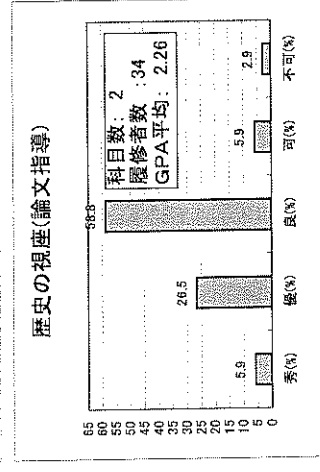
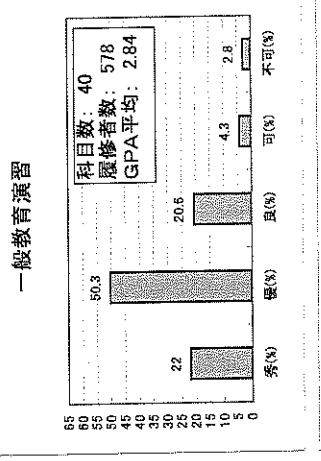
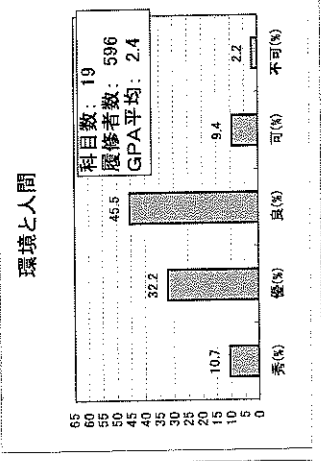
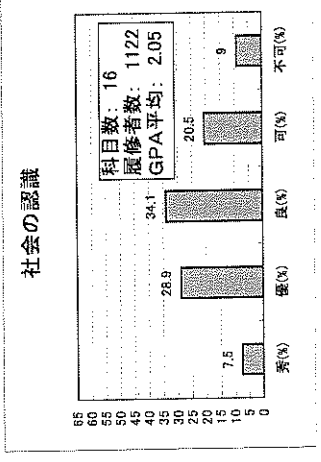
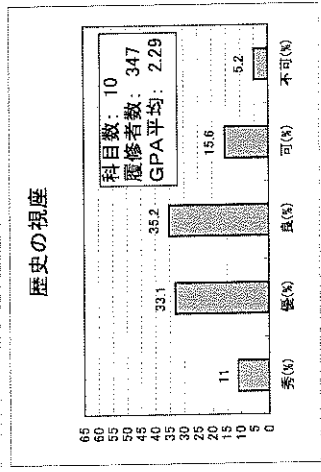
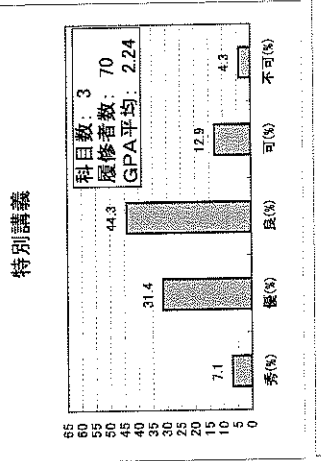
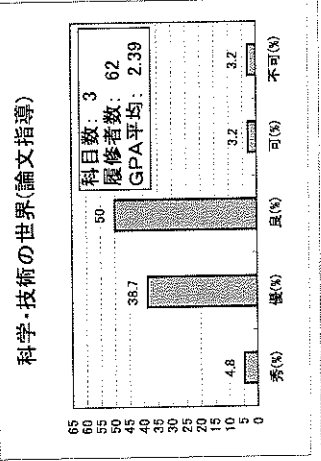
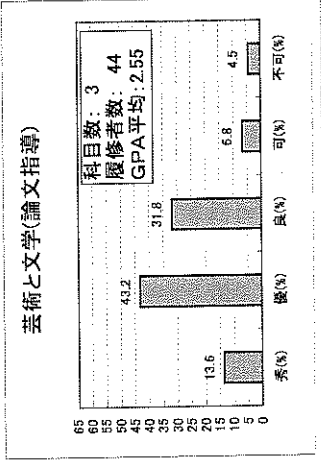
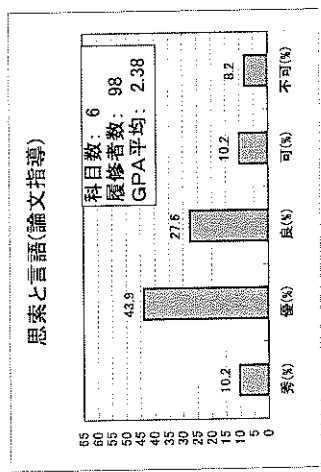
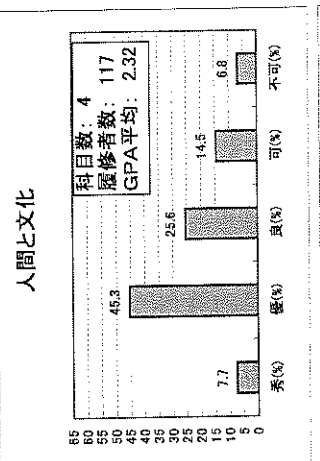
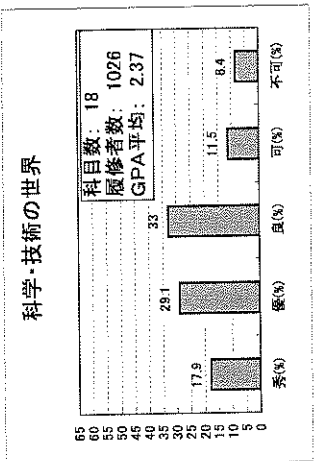
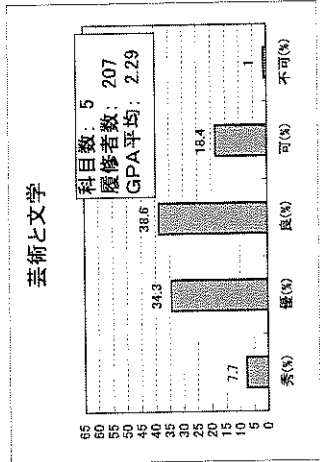
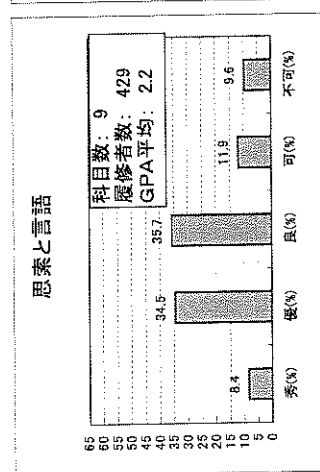
科目名	18-1GPA	17-1GPA	18-17	
思索と言語	2.2	2.14	0.06	
思索と言語(論文指導)	2.38	2.51	▲ 0.13	
歴史の視座	2.29	2.15	0.14	
歴史の視座(論文指導)	2.26	2.6	▲ 0.34	
芸術と文学	2.29	2.24	0.05	
芸術と文学(論文指導)	2.55	2.51	0.04	
社会の認識	2.05	2.34	▲ 0.29	
社会の認識(論文指導)	2.43	2.64	▲ 0.21	
科学・技術の世界	2.37	2.15	0.22	
科学・技術の世界(論文指導)	2.39	2.67	▲ 0.28	
環境と人間	2.4	2.14	0.26	
健康と社会	2.06	1.92	0.14	
人間と文化	2.32	2.45	▲ 0.13	
特別講義	2.24	1.89	0.35	
一般教育演習	2.84	2.71	0.13	
一般教育演習(論文指導)	2.83	2.6	0.23	
体育学A	2.58	2.58	0.00	
体育学B	1.88	—	—	18～開講
情報学 I	2.78	2.87	▲ 0.09	情報処理 I
統計学	2.04	1.99	0.05	
英語 I	2.15	2.13	0.02	
英語 II	2.14	1.97	0.17	II CALL
ドイツ語 I	2.21	2.14	0.07	
フランス語 I	2.12	2.11	0.01	
ロシア語 I	2.08	2.26	▲ 0.18	
中国語 I	2.38	2.35	0.03	
ドイツ語演習	2.28	2.64	▲ 0.36	
フランス語演習	2.43	3.16	▲ 0.73	
中国語演習	2.47	3.3	▲ 0.83	
イタリア語演習	2.67	—	0.66	外国語C
スペイン語演習	1.75	2.01	▲ 0.26	
人文科学の基礎	2.17	—	—	18～開講
社会科学の基礎	1.79	—	—	18～開講
線形代数学 I	2.31	1.97	0.34	
微分積分学 I	2.34	2.05	0.29	
基礎物理学 I	2.41	2.2	0.21	
物理学	2.36	2.19	0.17	物理学 I
基礎化学 I	2.3	2.18	0.12	
化学	2.18	2.15	0.03	化学 I
基礎生物学 I	2.48	2.1	0.38	
生物学	2.39	2.14	0.25	生物学 I
基礎地学 I	2.34	2.55	▲ 0.21	
日本語 I	2.64	2.1	0.54	
日本事情	3.22	3	0.22	
基礎自然科学実験	2.56	—	—	17データなし
自然科学実験(2単位)	2.74	2.37	0.37	各実験平均
総計	2.35	2.23	0.12	

総計は表の項目の平均ではなく、履修者が5人以下の科目等を含めた全ての科目の平均

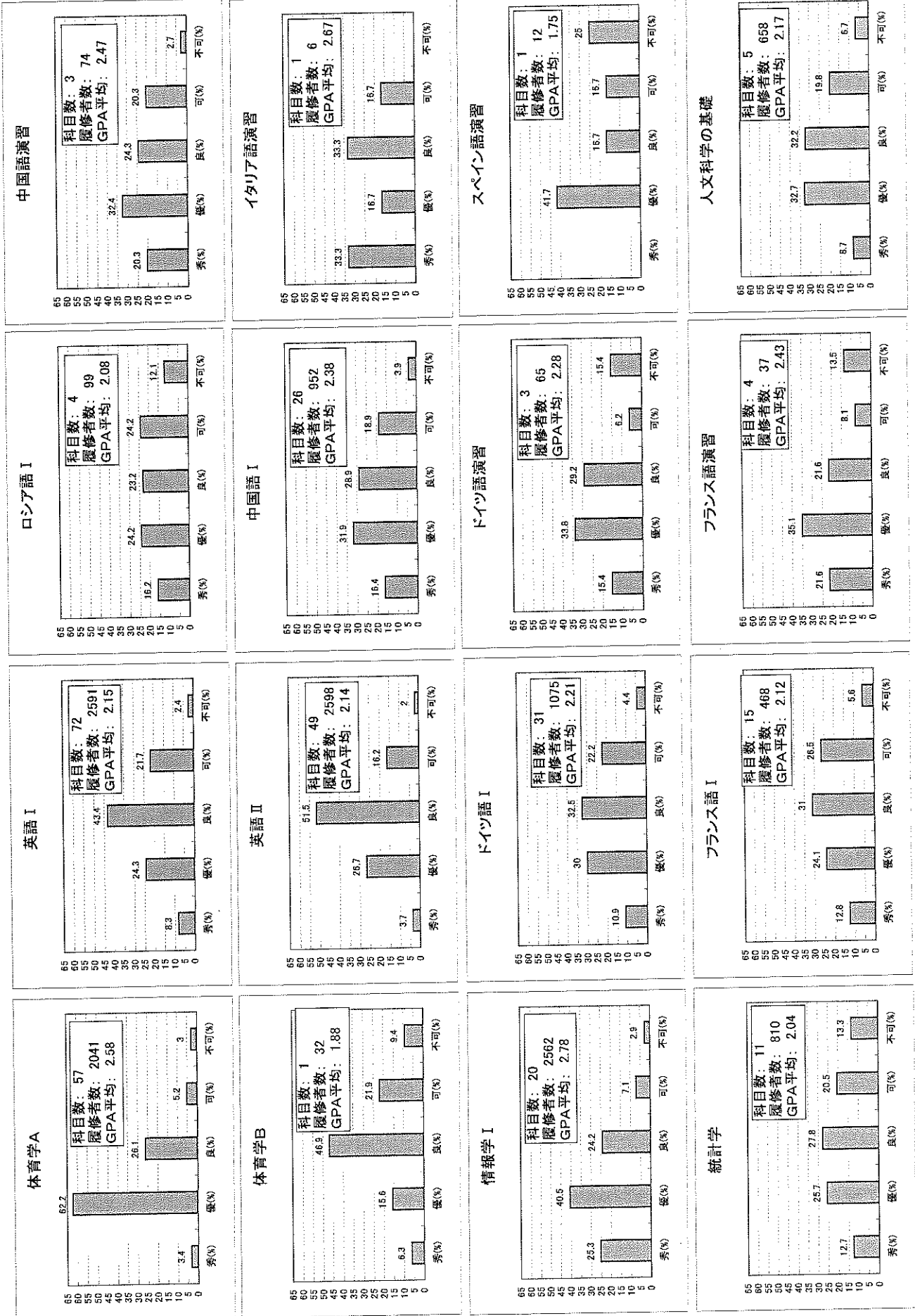
平成18年度第1学期科目別GPA



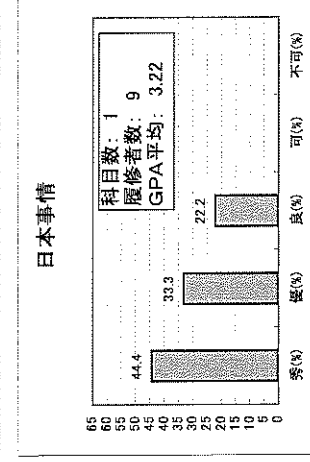
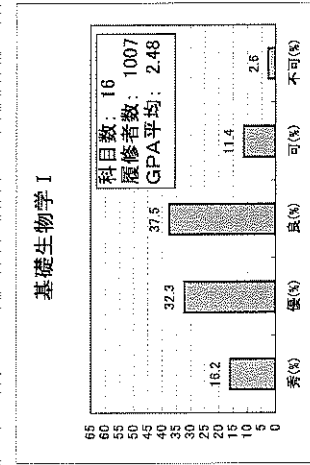
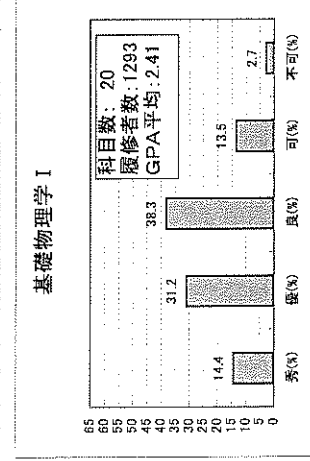
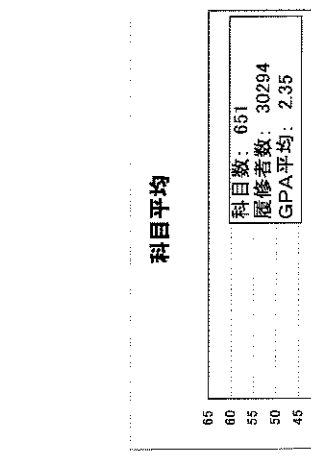
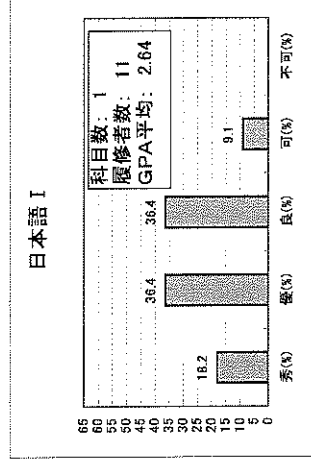
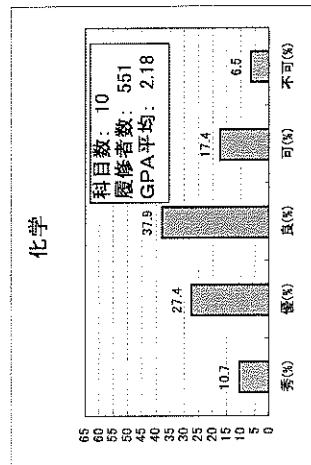
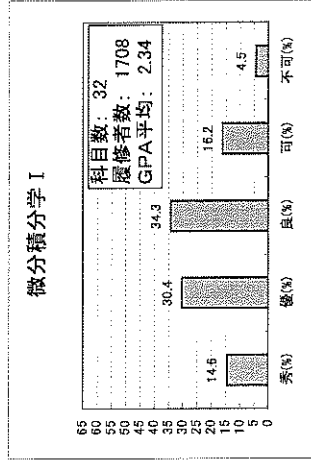
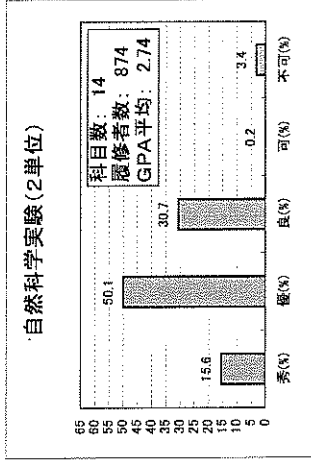
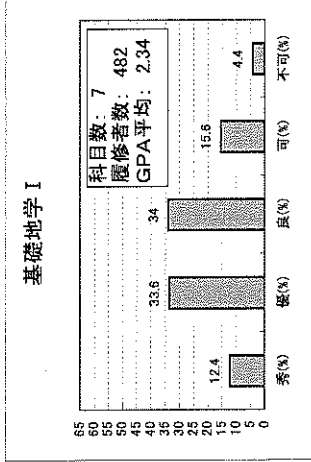
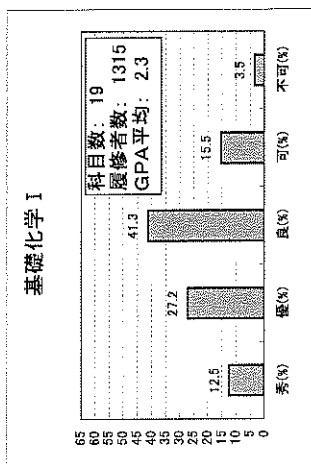
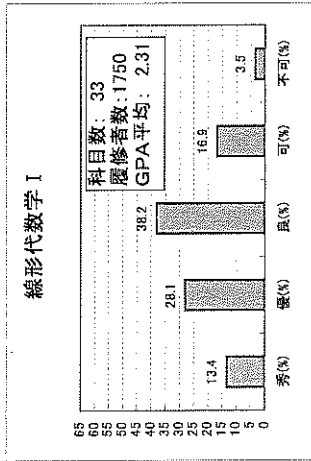
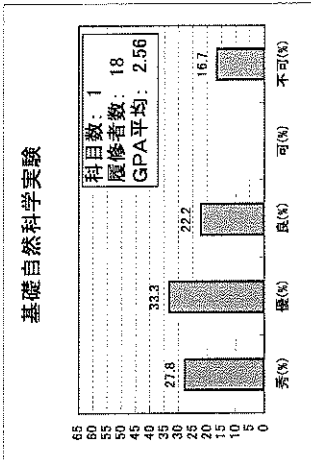
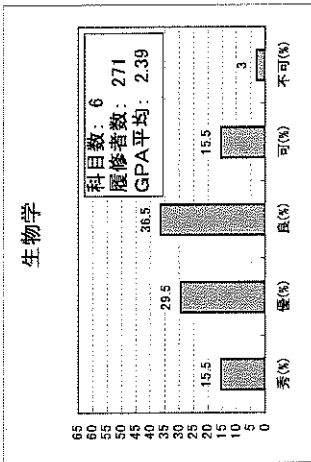
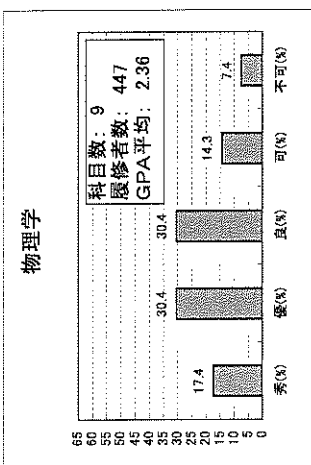
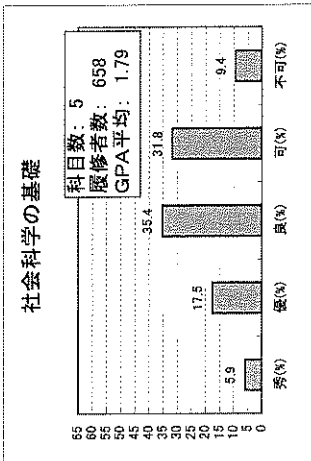
取扱注意



平成18年度第1学期 科目別評価分布表



平成18年度第1学期 科目別評価分布表



2. 履修登録上限設定単位数について

検証内容

- 単位の実質化
- 履修登録単位数の上限設定
- 履修登録制度

P18 資料B-1：平成18年度第2学期履修登録単数一覧（10.18速報値）

資料B-1は、平成18年度第2学期に学生が登録した単位数について示している。
文学部を例にとると、

- ・履修登録単位数の上限として「25単位（21+4）」とあるのは、「21」が文学部の履修登録単位数の上限単位であり、「4」とあるのが再履修として付加された4単位となっており、合わせて25単位が履修登録の上限設定となっている者の登録分布となっている。
- ・履修登録の上限設定25単位に該当する者の総数は75名で、その内、21単位以下の登録となった者は62名82.7%となっている。同じように22単位から25単位の分布について示している。
- ・履修登録単位数の上限として「29単位（21+4+4）」とあるのは、「21」が文学部の履修登録単位数の上限単位であり、「4」とあるのが再履修として付加された4単位、そして特例措置で加算された「4」単位を合わせて29単位が履修登録の上限設定となっている者の登録分布となっている。
- ・履修登録の上限設定29単位に該当する者の総数は121名で、その内、25単位以下の登録となった者は120名99.2%となっている。同じように26単位から29単位の分布について示している。
- ・総計（黄色の部分）は履修登録をした全ての者196人の分布で、19単位以下を登録した者は全体の50.5%となっていて、約80%の者が21単位以内と登録であった。

実績からの結果

資料B-1から推察し、文系21単位、理系23単位を基本とした各学期の履修登録上限設定単位数については、概ね妥当な単位数であったと思われることから、平成19年度においても平成18年度と同様に取扱う。

修業課程	25単位(21+4)					26単位(22+4)					29単位(21+4+4)					30単位(22+4+4)					総計					1学期の学期平均	
	21以下	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	21以下	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	人数	%	
文学部	62	2	7	3	1								120	0	1	0	0								196	50.5%	
教育学部	25	1	2	0	0								27	0	0	0	0								55	72.7%	
法学部						69	6	10	3	4			111	2	0	0	0								205	19.0%	
経済学部	98	4	8	5	4								79	1	0	0	0								103	24.3%	
合計	185	7	17	8	5	69	6	10	3	4		113	2	0	0	0								655	42.9%		

57.0% 71.3% 81.1% 86.7% 95.7% 98.2% 99.5% 100.0% 注:法学部:1学期の平均が低いのは専門必修科目4単位の2科目が必修科目にカウントしてあるため

修業課程	25単位(21+4)					26単位(22+4)					29単位(21+4+4)					30単位(22+4+4)					総計					1学期の学期平均	
	21以下	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	21以下	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	人数	%	
理学部						71	2	22	5	21			172	0	10	0	5								308	20.5%	
医学部医学科						29	3	1	16				66	12	1	3									95	11.6%	
医学部保健学科						74	1	0	0				118	0	0	0	0								192	94.8%	
歯学部	31	0	1	0	2								60	0	1	0	2								60	93.3%	
薬学部						31	20	2	5	1	3		51	1	1	0	0								82	13.4%	
工学部応用理工						48	2	12	4	7			98	2	1	0	1								171	31.0%	
工学部情報工						55	10	8	9	3			111	2	0	0	0								196	37.8%	
工学部機械工学						40	2	15	2	5			61	0	1	0	0								125	35.0%	
工学部環境工学						108	13	17	6	11			113	2	5	1	2								219	16.4%	
農学部	6	8	15	18	28								148	11	19	7	11								223	8.1%	
獣医学部						4	0	5	1	5			20	4	4	1	0								44	5.8%	
水産学部						88	6	29	9	20			135	7	20	1	6								223	4.0%	
合計	37	8	16	18	30	383	69	111	57	73	3	174	125	11	20	7	11								1938	28.9%	

36.8% 53.1% 61.0% 76.2% 83.3% 84.0% 96.1% 99.2% 100.0% 注:農学部:1学期の平均が低いのは専門必修科目2単位の各科目があるため

平成19年度に向け検討・改正した事項

「再履修」として2学期に4単位付加される制度について

第2学期に全員に対して第1学期の再履修分（再履修の有無に係らず全員）として4単位付加する制度において次の事項について検討した。

- ①「再履修」として第2学期に4単位を付加する必要性について
- ②「再履修」との名称から制度が理解されていない問題があり名称の変更を必要があることについて。

以上を勘案し、次のとおりとした。

履修登録上限設定単位数について（案）

現 行	変 更
名称： 「再履修」	名称： 「学期加算単位数」

また、本措置は平成18年度から2年間の時限措置で取り入れていることから、平成20年度以降の適用については今後の検討課題となる。

履修登録上限設定における特例措置の基準値（学期GPA2.30以上）について

取り扱いについてP3に記載

3. 履修登録制度について

検証内容

□履修登録科目の入替え制度（予備科目の登録）

履修登録時に予備科目を登録することにより、その後の一定期間に限り、履修登録の上限設定内で登録している科目と予備科目を入替えることができる制度を取り入れたが、この制度の利用者は第1学期82名、第2学期11名に留まった。

□履修登録科目の取消しについて

平成18年度から「評価せず」を廃止しGPAを本格的に導入したことにより、一度登録した科目（抽選で許可を得た科目も含む）を取り消すことが出来ないことに対する問題（不満）が生じた。

□Webによる履修登録について

第2学期から18年度入学者に限り、Webによる履修登録を実施したが、混乱は生じていない。

平成19年度に向け検討・改正した事項

履修登録科目の入替え制度（予備科目の登録）及び履修登録区分の見直し

履修登録科目の入替え制度（予備科目の登録）の利便性及び履修登録区分の明確性を図るため、次のとおり改正することとした。

追加・入替え科目（旧：予備科目）の登録制度の変更について（案）

現 行	変 更
名称：「予備科目」	名称：「追加・入替え科目」
措置： 履修登録時点で上限設定単位数内に登録したA科目と予備科目に登録したB科目について所定の期間内に入替える制度。	措置： 履修登録時点で上限設定単位数内に登録したA科目と追加・入替え科目に登録しているB科目について所定の期間内に入替える。

<p>登録単位数：4単位まで</p>	<p>制度に加えて、履修登録時に上限設定単位数以下に登録し、所定の時期に追加・入替え科目として登録していた科目を追加できる制度を付け加える。</p> <p>登録の例：(1学期の例)</p> <p>①履修登録時点には、上限23単位以下の21単位を登録する。</p> <p>②履修登録時点に、追加・入替え科目として3科目(最大6単位)を登録する。</p> <p>③所定の時期に追加・入替え科目で登録していた3科目の内、1科目2単位を追加登録し、既に登録している単位数と合わせて上限23単位以内の登録とする。</p> <p>登録単位数：<u>6単位まで</u></p> <p>メリット： 選択科目について数回の授業に出席後登録の可否を決定できる。 上限に余裕がある後期に効力がある。</p> <p>デメリット： 登録完了までの間の受講者の出入り(出欠)が多くなる。</p>
--------------------	---

登録区分名称の変更について(案)

現 行	変 更
<p>名称：「教職科目 等」</p> <p>措置： 履修届において、履修登録単位数の上限設定外の教職科目等について登録させた区分。</p>	<p>名称：「上限設定外科目」</p> <p>措置： 該当科目が、教職科目、国際交流科目、(特別講義)、(一般教育演習)と多岐に渡ることから明確化するための変更。</p>

4. 履修登録科目の取消しについて

□GPA制度の導入及び「評価せず」の廃止に伴う「履修登録科目の取消」について

検証内容

GPA制度の導入及び「評価せず」の廃止にともない、履修を放棄した科目について「取消」を認めるとともに、GPAにも算入しないでほしいとの学生の要望を検討する必要があること。

平成19年度に向け検討・改正した事項

パス／ノンパス制度の一部として、一度履修登録した科目の取消を認める制度を、平成19年度より次のとおり取り扱うこととする。

履修登録科目の取消し制度について（案）

現 行	変 更
<p>措置： 一度登録した履修科目の取消しは原則認めていない。</p> <p>したがって、授業を放棄した場合、「評価せず」が廃止されていることから、その科目は「不可」として評価され、GPAが下がる（悪くなる）。</p>	<p>措置： 病気による長期欠席の場合や、履修登録時に思い描いた授業と異なる場合などにおいても、「評価せず」が廃止されたこと及び、GPAとの兼ね合いから授業を放棄することが出来ないため、平成19年度からパス／ノンパス制度の一環として下記のとおり「履修の取消し」を認める制度を設ける。</p> <p>対象科目： ①全学教育科目を対象とし、専門科目への適用については各学部の判断による。</p> <p>②全学教育科目については、履修学期が指定されている必修科目（英語Ⅰ～Ⅳ、自然科学実験、文系基礎科目など）の取消しは認めない。</p> <p>注意：上記②の必修科目には、履修学期を指定していない外国語演習、一般教育演習などは含めない。（取り消すことができる科目とする）</p>

③学期の初めに抽選等により許可を得た科目
(一般教育演習，特別講義，外国語演習，論
文指導等)についても取消しを認める。

取消期間：

授業開始日から2ヶ月後を目安に3日間程
度設定する。

1学期： 6月中旬頃

2学期： 12月中旬頃

取消した科目に代わる追加登録：

当該学期での追加登録は認めない。

対象学生：

18年度以降入学者とする。

18年度入学者は19年度以降に登録した
科目から適用させる。

教員への周知：

教務課から該当教員に周知する。

5. GPA制度について

検証内容

GPAの算出方法については特に問題は生じていない。

6. 通算GPAに算入しない科目について

検証内容

「体育学A」「情報学I」を通算GPAに算入していないことについては特に問題は生じていない。

平成19年度に向け検討・改正した事項

P25 資料C：平成17年度一般教育演習フィールド型集中講義履修者数・成績分布表

現行の「体育学A」「情報学I」に加えて、資料Eにより「一般教育演習 集中講義・フィールド型」も通算GPAに算入しない科目とすることについて検討したが、19年度においては、一般教育演習全体の科目別平均などを考慮した結果、18年度と同様に通算GPAに算入する科目として取り扱うこととするが、引続き次の事項について検討する。

- ・一般教育演習，一般教育演習（集中講義），一般教育演習（論文指導），自然科学実験についても，通算GPAから除外する科目とすることについて検討する。

7. パス／ノンパス制度について

平成19年度に向け検討・改正した事項

平成19年度の全学教育においては、上記3の「履修登録制度について」における「履修登録科目の入替え制度（予備科目の登録）」「履修登録科目の取消し制度について」及び上記6の「通算GPAに算入しない科目について」を整理したことにより「パス／ノンパス制度」の一部導入とみなすこととする。

また、平成20年度以降の「パス／ノンパス制度」については、今後の教育改革室WGの検討結果により検討することとした。

資料C

平成17年度 一般教育演習 フィールド型集中講義 履修者数・成績分布表

学期	講義題目名	履修者数	評価者数	修得者数	秀(人)	優(人)	良(人)	可(人)	不可(人)	無欠(人)	秀(%)	優(%)	良(%)	可(%)	不可(%)	無欠(%)	GPA
第1学期	フレッシュマン・セミナー「フィールドで鍛えるⅠ」	22	21	21	4	16	1			1	18.2	72.7	4.5			4.5	3.14
	フレッシュマン・セミナー「フィールドで鍛えるⅡ」	22	20	20	4	16				2	18.2	72.7				9.1	3.2
	フレッシュマン・セミナー「フィールドに出ようⅠ」	21	19	19	5	14				2	23.8	66.7				9.5	3.26
	フレッシュマン・セミナー「フィールドに出ようⅡ」	22	19	19	4	14	1			3	18.2	63.6	4.5			13.6	3.16
	遺跡を探そう「フィールド体験型考古学研修」	23	17	17	6	11				6	26.1	47.8				26.1	3.35
	湖と火山と海藻と森林の自然	25	20	20		20				5		80				20	3
	森・里・海連環学 北大・京大合同演習Ⅰ	8	8	8	8	5	3					62.5	37.5				2.63
	森・里・海連環学 北大・京大合同演習Ⅱ	10	9	9	9	2	6	1		1		20	60	10		10	2.11
	北海道北部の自然と人々のくらし(夏)	28	25	25	25	25				3		89.3				10.7	3
	牧場のくらしと自然	25	23	23	23	23				2		92				8	3
第2学期	卵と精子から生命を探る	18	13	13	4	7	2			5	22.2	38.9	11.1			27.8	3.15
	フレッシュマン・セミナー「流水をめぐるロマン科学ー水とともに生きる」	19	18	18	1	8	8	1		1	5.3	42.1	42.1	5.3		5.3	2.5
	北海道北部・冬の自然と人々のくらし(研究林コース)	30	27	27	27	27				3		90				10	3
	科目数	履修者数	評価者数	修得者数	秀(人)	優(人)	良(人)	可(人)	不可(人)	無欠(人)	秀(%)	優(%)	良(%)	可(%)	不可(%)	無欠(%)	GPA
	13	273	239	239	28	188	21	2	0	34	10.26%	68.86%	7.69%	0.73%	0.00%	12.45%	2.96
合計・平均		157	2690	2509	2428	1310	581	172	81	181	13.6%	48.7%	21.6%	6.4%	6.4%	6.7%	2.88

17年度第1・2学期 フィールド型集中講義を除く一般教育演習

科目数	履修者数	評価者数	修得者数	秀(人)	優(人)	良(人)	可(人)	不可(人)	無欠(人)	秀(%)	優(%)	良(%)	可(%)	不可(%)	無欠(%)	GPA	
157	2690	2509	2428	365	1310	581	172	81	181	13.6%	48.7%	21.6%	6.4%	6.4%	6.7%	2.88	
合計・平均		84	1040	1040	1040	488	236	49	25	-	23.3%	46.9%	22.7%	4.7%	2.4%	-	2.84

18年度第1学期 フィールド型集中講義を除く一般教育演習

科目数	履修者数	評価者数	修得者数	秀(人)	優(人)	良(人)	可(人)	不可(人)	無欠(人)	秀(%)	優(%)	良(%)	可(%)	不可(%)	無欠(%)	GPA	
84	1040	1040	1040	242	488	236	49	25	-	23.3%	46.9%	22.7%	4.7%	2.4%	-	2.84	
合計・平均		84	1040	1040	242	488	236	49	25	-	23.3%	46.9%	22.7%	4.7%	2.4%	-	2.84

8. 「特別講義」の取り扱いについて

検証内容

第1学期の特別講義「北海道大学人と学問（部局編）」、「同（COE編）」及び「キャリアデザイン」が極端な履修者の減となった。それを受けて、第2学期開講の特別講義「大学と社会」を抽選科目外、上限設定単位数外としたところ、履修者数が411名となった。

平成19年度に向け検討・改正した事項

本科目は、コアカリキュラムの代表的な科目であることや、今後のキャリア形成について入学時から意識を持たすという意味からも、より多くの学生に履修させる必要性があると考えられる。よって、第2学期開講の「大学と社会」において履修者が増えたことなどを勘案し、特別講義「北海道大学人と学問（部局編）」「キャリアデザイン」「大学と社会」については、次のとおりとして開講する。

なお、「北海道大学の人と学問（COE編）」は開講を取り止めることとなった。

特別講義の取り扱いについて（案）

現 行	変 更
措置： 履修登録上限設定単位数の取り扱い 上限設定単位数の対象科目とする。	措置： 履修登録上限設定単位数の取り扱い 上限設定単位数の <u>対象外（含めない）</u> 科目とする。
履修調整方法： キャリアデザインを除き、事前に抽選による履修調整とする。	履修調整方法： <u>キャリアデザインを含め</u> 、事前に抽選による履修調整方法とする。
GPAに関する取り扱い： 算入する。	GPAに関する取り扱い： 算入する。
進級、卒業要件に関する取り扱い： 通常とおりにする。	進級、卒業要件に関する取り扱い： 通常とおりにする。

9. 「一般教育演習」の開講計画について（除く集中講義）

検証内容

履修者数の推移は下表のとおりとなった。

	17年度		18年度		18年－17年	
	科目数	受講者数	科目数	受講者数	科目数	受講者数
1学期	96	1965	84	1067	▲12	▲898
2学期	61	767	63	765	+2	▲2
合計	157	2732	147	1832	▲10	▲900

受講率	105.0%	70.4%	学生総数は2600名で計算
-----	--------	-------	---------------

平成19年度に向け検討・改正した事項

- ①履修登録の上限設定単位数外科目（卒業・進級要件の単位数には通常科目と同様に含まれる科目）とし，実行教育課程表上において「履修推奨科目」として位置づけるよう各学部に要請する。
- ②履修希望者数が1名から3名ないし5名程度の科目の開講を取り消すことについての検討
P29～P30 資料D-1：一般教育演習履修者数5名以下の科目一覧 参照
P41～P45 参考資料：平成18年度からの新教育課程
・単位の実質化に関するアンケート（教員向け） 参照
- ③開講計画を見直し，各学期の開講科目数を削減する。
P31～P32 資料D-2：履修者統計表 参照
- ④履修許可者数20名～23名を15名程度とし他の科目での履修を促す。
- ⑤履修希望が多い科目（前年度実績）については，前後期の開講を依頼する

以上の事項について検討し次のとおり取り扱うこととした。

一般教育演習の開講・取り扱いについて（案）

現 行	変 更
履修登録上限設定単位数の取り扱い： 上限設定単位数の対象科目とする。	履修登録上限設定単位数の取り扱い： 上限設定単位数の対象外（含めない）科目とする。

各学部の実行教育課程表上の措置：
特別な措置は依頼していない。

履修調整方法：
事前に抽選による履修調整

追加申込について：
科目数に制限なく申込みできる。

最大登録可能科目数：
抽選による許可で1科目，追加申込に制限なし。

履修者が少数の場合の開講の取り止めについて：
履修希望者が1名でもいる場合は開講していた。

開講科目数の調整：
2学期での多くの開講を依頼していたが，科目の減に関する調整は行っていない。

履修許可者数の調整：
履修希望者に応じて，原則1科目20名～25名の間で調整する。

各学部の実行教育課程表上の措置：
必修科目に指定していない学部学科には「履修推奨科目」と位置づけ表記するよう要請する。

履修調整方法：
事前に抽選による履修調整

追加申込について：
追加登録は，1学期は1科目のみ，2学期については制限なく追加登録を認める。
ただし，抽選により既に1科目の履修が決定している者は，上限設定単位数内科目として登録することとなる。

第1学期の最大登録可能科目数：
抽選による許可で1科目，追加申込で1科目，合わせて2科目が登録可能となる。

履修者が少数の場合の開講の取り止めについて：
履修希望者が少数（1名から3名ないし5名程度）の科目の開講取消について検討した結果，演習形式の双方向授業における教育効果を勘案し，履修希望者が3名以下の場合，開講を取り消す（開講しない）。その際，開講が取り消された科目を希望した学生に対しては，優先して他の科目の履修を認める措置を講ずる。

開講科目数の調整：
行わない。

履修許可者数の調整：
18年度と同様とする。

履修希望が多い科目（前年度実績）の，前後期の開講について：
20年度以降から開講要請を行う。

資料D-1

一般教育演習 履修者数5名以下科目(15年度-18年度)

科目名	教員名	履修者数	開講期
大陸衝突と山脈形成・気候変動	在田 一則	0	18-1
基礎物理化学演習	村越 敬	0	18-1
外国語研究入門	山村 理人	0	18-2
遺伝子情報はそのように守られるか	郷谷 浩之	0	18-2
細胞がつくる社会、社会の中の細胞	岩永 敏彦	1	17-2
ナノテックと社会	徳本 洋志	1	17-2
○クイズで学ぶ化学と科学	大谷 文章	1	18-1
工学的創成実験Ⅰ	大塚 俊明	1	18-1
○遺伝子工学研究入門	幸田 敏明	1	18-2
○生殖生物学入門:生命の連続性と多様性の源を探る	山下 正兼	1	18-2
○社会認識のあゆみ	浅川 和幸	1	18-2
○グローバル時代の文化について	大平 具彦	1	18-2
ナノテックと社会	徳本 洋志	1	18-2
P型Atase反応機構の大家Post博士の原著論文を読む	鈴木 邦明	1	18-2
IP型ATPase反応機構の大家Post博士の原著論文を読む	鈴木 邦明	2	15-2
材料が考える	工藤 昌行	2	17-2
科学技術の発展と表面・電極の科学	松島 龍夫	2	17-2
○資本主義経済の仕組み	唐渡 興玄	2	17-2
○量子の世界	岡部 成弘	2	18-1
健康情報の科学	長澤 滋治	2	18-1
○電子版「クラリッサ」を読む	渡辺 洋	2	18-1
寒冷地の環境を情報科学として考える	木村 圭司	2	18-1
○聖徳太子 十七条の憲法	石塚 晴通	2	18-2
日本の科学技術はよみがえるか	佐藤 正知	3	15-1
分子エレクトロニクス	中村 貴義	3	15-2
制御・生産・エネルギーシステム技術	長谷川 淳	3	15-2
アイソトピック・イン・ファンダメンタル物理学はいつか創られたか?を読む	徳田 直樹	3	15-2
分子エレクトロニクス	中村 貴義	3	16-2
聖徳太子 十七条の憲法	石塚 晴通	3	17-1
マイクロとマクロの結合	工藤 昌行	3	17-2
海洋を伝播する波(主に津波)	谷岡 勇市郎	3	17-2
○科学技術の発展と表面・電極の化学	松島 龍夫	3	18-1
工学的創成実験Ⅳ	大塚 俊明	3	18-1
○自然の中の波	蓬田 清	3	18-1
海洋を伝播する波(主に津波)	谷岡 勇市郎	3	18-2
知識メディア・情報を活性化させる基礎技術	田中 謙	3	18-2
○経済史に慣れる	内藤 隆夫	3	18-2

1)履修者「なし」の場合は、現在でも開講キャンセルとなっている(18年度2学期:2科目)。

(18年度2学期の例では)

2-1)履修者1名以下の科目を開講中止にすると、8科目6名が対象となる。

2-2)履修者2名以下の科目を開講中止にすると、9科目8名が対象となる。

2-3)履修者3名以下の科目を開講中止にすると、12科目17名が対象となる。

2-4)履修者4名以下の科目を開講中止にすると、16科目33名が対象となる。

2-5)履修者5名以下の科目を開講中止にすると、19科目48名が対象となる。

3)抽選結果で履修者1~5名以下の科目を開講中止にし、中止科目の履修希望者には追加登録を認めることを検討する。

(18年度2学期の抽選結果では)

3-0)履修者0名の科目は、2科目。

3-1)履修者1名以下の科目は、9科目7名。

3-2)履修者2名の科目は、なし。

3-3)履修者3名以下の科目は、15科目25名。

3-4)履修者4名以下の科目は、19科目41名。

3-5)履修者5名以下の科目は、22科目56名。

4)特別の事情がある場合、事前に届けてもらい、開講中止としないことも考えられる。

5)開講中止となった科目を次年度以降も開講することは妨げないが、講義題目、シラバス内容等の工夫を要請する。

6)開講中止を期待して、意図的に「不人気」なテーマの開講計画を提出する場合も考えられるが、当面は教員の良識に期待する。

7)この例は、他の全学教育科目(外国語演習等)、専門科目にも応用可能だが、それについては個々に関係委員会、部局等で検討

8)教員アンケートの集計結果では、開講中止支持:開講中止反対の比率は2:1、5名以下の科目を開講中止とする意見が最多数

は履修者5名以下となったことが2回以上ある担当者

は履修者3名以下の例

北太平洋の人類学 - F Boasの北太平洋調査プロジェクトUNEPを中心に	井上 紘一	4	15-1
P型ATPase反応機構の大家Post博士の原著論文を読む	鈴木 邦明	4	16-2
堆積物と地球・海洋環境	阿波根 直一	4	17-2
○現代の地域社会	松岡 昌則	4	17-2
Field Bioscience in the Northern Biosphere	上田 宏	4	17-2
サイバーワールド情報学フロンティア	木村 圭司	4	17-2
P型ATPase反応機構の大家Post博士の原著論文を読む	鈴木 邦明	4	17-2
原子力とハイテクノロジ	金子 純一	4	18-1
○科学者の人生	細川 敏幸	4	18-1
感染症から身を守る - 免疫について -	小沼 操	4	18-1
ごみから見た社会	松藤 敏彦	4	18-1
○堆積物と地球・海洋環境	阿波根 直一	4	18-2
地球環境理解のための基礎化学演習	豊田 和弘	4	18-2
未来の農業 - 環境調和とIT -	野口 伸	4	18-2
○異文化コミュニケーション学への招待	李明玉	4	18-2
乳児の発達を語る - 乳学初見考の奇蹟を語る...世紀の発見の瞬間とは?	岩熊 敏夫	5	15-2
生体内で起まる化学反応	数坂 昭夫	5	15-2
土の不思議を探る	三浦 清一	5	16-2
Imaging of the Brain	赤池 忠	5	16-2
数字を歴史で学ぶ	山口 佳三	5	17-2
遺伝情報はどこのように守られるのか	紙谷 浩之	5	17-2
Imaging of the Brain	赤池 忠	5	17-2
○社会認識のあゆみ	浅川 和幸	5	17-2
21世紀を担う機能性材料	尾知 豊次	5	17-2
地球環境時代のウリエイティブ・ヒューマン・ライフのソフトとハードを導く	横山 真太郎	5	18-1
レーザの基本原理の説明を英文和訳により作成してみよう	三島 英人	5	18-1
○環境をよべ探ける人類 - 地球環境・生態安定化は可能であろうか? -	大崎 嵩	5	18-1
○世界のしくみについて	陳 省仁	5	18-1
ゲノムを考える	渡邊 日出海	5	18-1
○はじめの経営学	平本 健太	5	18-1
ウイルスと人獣共通感染症	有川 二郎	5	18-1
○高齢者の人権について	高波 澄子	5	18-1
○旅行記を読む	吉開 将人	5	18-2
○古典文学に見る動物	長谷川 千尋	5	18-2
○不平等の社会学	平沢 和司	5	18-2

平成18年度第2学期開講 一般教育演習における履修希望状況

講義題目名	単位	定員	第1希望者	第2希望者	第3希望者	第4希望者	第5希望者	第6希望者	第7希望者	初回当選者	補充当選者	当選者計	追加待選者	追加登録者	受講者数	状況
「やさしさとは何か」	2	16	9	17	7	6				14		14	2	2	16	定員充足
○Rubyでプログラミング	2	23	30	6	3					23		23		3	23	定員充足
○ナショナルリズム論	2	23	3	2	1					3		3	20	3	6	
○運送子工学研究入門	2	23	1		1					1		1	22		1	
○選伝子情報ほどのように守られるか	2	23		1	1							0	23		0	
○現代中国の社会と経済	2	23	11	5	2	4				12		12	11	3	15	
○古典文学に見る動物	2	23	5	3	3	2				5		5	18		5	
○自分のキャリアを考えよう	2	23	9	4	1	1			1	9		9	14	2	11	
○聖徳太子 十七条の憲法	2	23	1	2	1	1				1		1	22	1	2	
○地球温暖化と人類生態	2	23	6	1	3	1				6		6	17		6	
○中国の詩文	2	23	4	4	1	1		1		6		6	17	1	7	
○脳と心	2	23	9	2	1	1				9		9	14		9	
ナノテクと社会	2	23	1	1						1		1	22		1	
マイクロとマクロの結合	2	23	7	5		1				10		10	13	4	14	
外国研究入門(演習形式)	2	23		2								0	23		0	
極域海洋学入門	2	23	38	17	9	1				23		23			23	定員充足
身近な寄生虫	2	23	31	19	11	3				23		23			23	定員充足
知識メディア:情報を活性化させる基礎技術	2	15	3	2	1					3		3	12		3	
地球環境理解のための基礎化学演習	2	23	3	4		1		1		3		3	20	1	4	
微分方程式とその応用	2	23	14	1	3	1				15		15	8	2	17	
P型Atase反応機構の大家Post博士の原著論文を読む	2	23	1	1	1					1		1	22		1	
○コーランを読む	2	23	10	3	3	2		1		10		10	13	2	12	
○ハッチアダムス研究-現代医療が失ったもの-	2	20	16	7	3	2				16		16	4	2	18	
○国際経済学入門	2	23	11	4	3					11		11	12		11	
○生殖生物学入門:生命の連続性と多様性の源を探る	2	23	1	4	2		1			1		1	22		1	
○脳と行動:生物学的理解とその限界	2	23	9	1	3					9		9	14	1	10	
○福祉国家と社会保障改革の行方	2	23	7	5				1		6		6	17	4	10	
○旅行記を読む	2	23	6	3	1					5		5	18		5	
材料が考える	2	23	3	8	3	2		1		7		7	16	3	10	
数理的思考とコンピュータ-コンピュータは電気羊の夢を見るか-	2	23	14	11	1					18		18	5	4	22	
土の不思議を探る	2	23	14	6	2					17		17	6	2	19	
日常生活の中の数学	2	23	10	4	1					11		11	12	3	14	
未来の農業-環境調和とIT-	2	23	2	2	2	1		1		4		4	19		4	

一般教育演習履修登録状況

(平成18年度入学者)

(名)

所属学部(学科)	履修登録科目数別人数				合計	在籍者数	% (合計/在籍者数)
	1科目	2科目	3科目	4科目			
文学部	90	44	9	1	144	199	72.4%
教育学部	25	11	2		38	55	69.1%
法学部	64	21	2		87	207	42.0%
経済学部	61	30	3		94	201	46.8%
理学部	126	31	7		164	315	52.1%
工学部	281	93	11		385	719	53.5%
(応用理工)	(78)	(22)	(3)		(103)	(172)	59.9%
(情報)	(47)	(25)	(3)		(75)	(198)	37.9%
(機械)	(67)	(14)	(1)		(82)	(128)	64.1%
(環境)	(89)	(32)	(4)		(125)	(221)	56.6%
農学部	82	26	4		112	224	50.0%
獣医学部	16	6			22	44	50.0%
水産学部	198	15			213	229	93.0%
医学部	166	39	9		214	290	73.8%
(医学科)	(60)	(26)	(8)		(94)	(95)	98.9%
(保健学科)	(106)	(13)	(1)		(120)	(195)	61.5%
歯学部	57	1	1		59	60	98.3%
薬学部	53	8	1		62	83	74.7%
合計	1,219	325	49	1	1,594	2,626	60.7%
のべ科目数	1,219	650	147	4	2,020		

備考：1学期集中講義科目を含む。
 在籍者数は、平成18年11月6日現在の人数である。
 退学者のデータは含まれていない。

(平成18年度入学者における平成17年度分)

(名)

所属学部(学科)	履修登録科目数別人数				合計	在籍者数	% (合計/在籍者数)
	1科目	2科目	3科目	4科目			
文学部	93	48	14		155	196	79.1%
教育学部	25	19	1	1	46	55	83.6%
法学部	98	61	9	3	171	214	79.9%
経済学部	96	36	11		143	195	73.3%
理学部	174	56	8	3	241	314	76.8%
工学部	418	124	22	2	566	726	78.0%
(応用理工)	(102)	(22)	(6)		(130)	(168)	77.4%
(情報)	(100)	(50)	(9)	(2)	(161)	(195)	82.6%
(機械)	(76)	(33)	(3)		(112)	(134)	83.6%
(環境)	(140)	(19)	(4)		(163)	(229)	71.2%
農学部	117	41	8		166	214	77.6%
獣医学部	33	9			42	43	97.7%
水産学部	160	55	4		219	221	99.1%
医学部	124	73	36	8	241	287	84.0%
(医学科)	(1)	(52)	(33)	(8)	(94)	(94)	100.0%
(保健学科)	(123)	(21)	(3)		(147)	(193)	76.2%
歯学部	39	17	4		60	60	100.0%
薬学部	53	8			61	84	72.6%
合計	1,430	547	117	17	2,111	2,609	80.9%
のべ科目数	1,430	1,094	351	69	2,944		

備考：1・2学期集中講義科目を含む。
 在籍者数は、平成18年11月20日現在の人数である。
 退学者のデータは含まれていない。

10. 一般教育演習と特別講義の履修調整について

平成19年度に向け検討・改正した事項

上記「8. 特別講義の取り扱いについて」及び「9. 一般教育演習の開講計画について（除く集中講義）」により、一般教育演習と特別講義が履修登録単位数の上限設定外とすることに伴い、その際の両科目間の取り扱いは次のとおりとする。

一般教育演習と特別講義の履修調整について（案）

受講制限：

- ・ 抽選により科目を決定する際は、一般教育演習又は特別講義のどちらか一方の科目のみ許可することとし、許可された科目は「上限設定外の科目」として登録される。

- ・ 抽選により一般教育演習を許可されている場合（第1学期の例）
 - 抽選により許可された一般教育演習の取り扱い：上限設定外科目として登録する。
 - 一般教育演習の追加申込：上限設定内科目として1科目まで可能とする。
 - 特別講義の追加申込：上限設定内科目として1科目まで可能とする。

- ・ 抽選により特別講義を許可されている場合（第1学期の例）
 - 抽選により許可された特別講義の取り扱い：上限設定外科目として登録する。
 - 一般教育演習の追加申込：上限設定内科目として1科目まで可能とする。
 - 特別講義の追加申込：上限設定内科目として1科目まで可能とする。

- ・ 一般教育演習及び特別講義のいずれも抽選で外れた場合または抽選に申し込まなかった場合（第1学期の例）
 - 一般教育演習の追加申込：1科目まで可能とする。
 - 特別講義の追加申込：1科目まで可能とする。
 - 一般教育演習のみ追加申込した際の履修登録の上限設定の取扱い：
一般教育演習を上限設定外科目として登録する。
 - 特別講義のみ追加申込した際の履修登録の上限設定の取扱い：
特別講義を上限設定外科目として登録する。
 - 一般教育演習と特別講義の両科目とも追加申込した際の履修登録の上限設定の取扱い：
一般教育演習を上限設定外科目として登録し、特別講義を上限設定内科目として登録する。

受講制限を行う理由：

- ① 履修登録単位数の上限設定を設けている関係から、一般教育演習2単位、特別講義2単位合計4単位を上限設定外として上乗せすることは問題があると考察する。

特別講義の開講開始期日：

特別講義の初回授業（1週目）はガイダンスとする。

1.1. 大講堂で行なう授業の履修調整について

検証内容

履修登録単位数の上限設定の関係から、「特別講義」以外の「大講堂で行う授業」においても履修者減の傾向にある。

《平成17・18年度 受講者数調べ》

学期	科目	17年度	18年度	18年-17年
		受講者数	受講者数	受講者数
第1学期	北海道大学の人と学問（部局編）	378	32	▲346
	現代天文学と宇宙理論の展開（入門物理学）	—	63	—
	知っておきたい病気の知識	374	137	▲237
	日本国憲法	—	248	—
	スポーツ医科学入門	491	195	▲296
	北海道大学の人と学問（COE編）	165	22	▲143
	がん・医学・生物学から人文・社会科学へ	438	20	▲418
第2学期	宇宙惑星科学入門	404	171	▲233
	日本国憲法	402	321	▲81
	日本国憲法	279	144	▲135
	感覚と知覚の心理学	431	64	▲367
	食の健康学	339	477	+138

「感覚と知覚の心理学」は18年度と17年度では講義題目名・受講対象クラスが異なる。

平成19年度に向け検討・改正した事項

履修者数の減に伴う履修調整方法を検討した結果、平成19年より次のとおりとする。

大講堂で行なう授業の履修調整方法について（案）

現 行	変 更
措置： 履修登録前に抽選により履修許可を与えていた。	措置： 事前に抽選を行う科目の対象外とする。 履修希望者が多く、調整を必要とした場合は、履修登録後に機械的に抽選を行い、履修許可者を決定する。その場合の履修者許可者は500人程度とする。（一般的な履修調整方法）

12. 抽選に関する取り扱いについて

検証内容

□抽選を実施するシステム

特に大きな問題はなかった。

P37 資料E：希望順位決定率

□履修登録以前の抽選科目の取消し

番号間違いにより当選した科目の取消し，シラバスと授業内容の相違などを理由とした科目の取消しについて要望があったが，抽選で許可を得た科目の取消しは原則認めなかった。

□抽選の時期

抽選の時期を授業開始日から2日間としていることから，授業を受けることなく抽選に応募することに対して，学生からクレームが寄せられていることについての検討する。

P41～P45 参考資料：平成18年度からの新教育課程

・単位の実質化に関するアンケート（教員向け） 参照

平成19年度に向け検討・改正した事項

「一般教育演習」と「特別講義」が上限設定外科目とされることから，「一般教育演習」と「特別講義」を合わせて（同じ区分で）抽選を行う必要が生じることによる取扱いを次のとおりとする。

抽選科目の実施について（案）

現 行	改 正
抽選する科目及び決定する優先順位： ①英語演習 ②初習外国語演習 ③一般教育演習 ④英語演習，初習外国語以外の外国語演習 ⑤大講堂で行なう授業	抽選する科目及び決定する優先順位： ①英語演習 ②初習外国語演習 ③一般教育演習及び特別講義 ④英語演習，初習外国語以外の外国語演習 変更点1： 「一般教育演習」と「特別講義」を合わせて申請させ，1講義のみ許可をする。 変更点2： 「大講堂で行なう授業」の抽選は行わない。

平成18年10月26日現在

履修調整区分	第1志望		第2志望		第3志望		第4志望		第5志望		第6志望		第7志望	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
英語演習	676人	74.94%	168人	18.63%	42人	4.66%	13人	1.44%	3人	0.33%				
初習外国語演習	563人	90.51%	53人	8.52%	5人	0.80%	1人	0.16%						
一般教育演習	631人	91.18%	48人	6.94%	10人	1.45%	2人	0.29%			1人	0.14%		
その他外国語演習	290人	98.31%	4人	1.36%			1人	0.34%						
大講堂	961人	100.00%												
人文科学の基礎														
社会科学の基礎														

北海道大学

13. 英語単位「優秀認定」制度

検証内容

特に問題はなく、19年度も本年度同様の取り扱いとしたい。

14. 英語Ⅲ及びⅣの抽選制度

検証内容

特に問題はないが、初級クラスの履修者が少なかったことに対する検討を必要とする。

平成19年度に向け検討・改正した事項

「全ての抽選に外れた者」及び「未提出者」については、強制的に「中級クラス」に割り振ることとしていたが、19年度は「初級クラス又は中級クラス」に割り振ることとする。

15. 翌期再履修の制度について

検証内容

特に混乱なく実施された。

平成18年度からの新教育課程・単位の実質化に関するアンケート (回答依頼教員数 537)

質問1. 新入生の「学力の多様化」について

	回答数: 269		回答数: 33		回答数: 19		回答数: 63		回答数: 12		回答数: 30		回答数: 14		回答数: 3		回答数: 72		回答数: 17		回答数: 3		266		
	合計		主題別科目		総合科目		一般教育演習		共通科目		外国語科目		外国語演習		文系基礎科目		理系基礎科目		基礎科目(実験)		日本語科目		不明3		
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
1. 全体に学力の低下を感じた	41	15%	4	12%	3	16%	12	19%	2	17%	5	17%	2	14%	0	0%	8	11%	5	29%	0	0%			
2. 一部の学生に学力の低下を感じた	55	20%	6	18%	6	32%	8	13%	2	17%	8	27%	3	21%	2	67%	16	22%	3	18%	0	0%			
3. 昨年度までと特に変化はなかった	130	48%	21	64%	8	42%	35	56%	7	58%	10	33%	6	43%	1	33%	32	44%	6	35%	3	100%			
4. 一部の学生に学力の向上を感じた	11	4%	2	6%	0	0%	4	6%	0	0%	1	3%	2	14%	0	0%	2	3%	0	0%	0	0%			
5. 全体に学力の向上を感じた	4	1%	0	0%	0	0%	2	3%	0	0%	0	0%	1	7%	0	0%	1	1%	0	0%	0	0%			
(初年度担当で比較不可を含む)無回答など	28	10%	0	0%	2	11%	2	3%	1	8%	6	20%	0	0%	0	0%	13	18%	3	18%	0	0%			

質問2. 「単位の実質化」の取組み(全学教育科目規程第4条「1単位の授業科目は45時間の学習を必要とする内容をもって構成することを標準とし、参照」)について

	回答数: 269		回答数: 33		回答数: 19		回答数: 63		回答数: 12		回答数: 30		回答数: 14		回答数: 3		回答数: 72		回答数: 17		回答数: 3		266		
	合計		主題別科目		総合科目		一般教育演習		共通科目		外国語科目		外国語演習		文系基礎科目		理系基礎科目		基礎科目(実験)		日本語科目		不明3		
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
6. 「単位の実質化」に配慮した授業(予習・復習をうながす等の)を展開した	129	48%	14	42%	4	21%	34	54%	4	33%	18	60%	7	50%	2	67%	39	54%	5	29%	1	33%			
7. 「単位の実質化」について特に配慮はしなかった	136	51%	19	58%	15	79%	29	46%	7	58%	12	40%	6	43%	1	33%	32	44%	12	71%	2	67%			
無回答など	4	1%	0	0%	0	0%	0	0%	1	8%	0	0%	1	7%	0	0%	1	1%	0	0%	0	0%			

質問3. 「単位の実質化」による学生の学習態度の変化(受講態度, 質問回数や質問内容等)について

	回答数: 269		回答数: 33		回答数: 19		回答数: 63		回答数: 12		回答数: 30		回答数: 14		回答数: 3		回答数: 72		回答数: 17		回答数: 3		266		
	合計		主題別科目		総合科目		一般教育演習		共通科目		外国語科目		外国語演習		文系基礎科目		理系基礎科目		基礎科目(実験)		日本語科目		不明3		
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
8. 全体に過年度生より授業に熱心に取組んでいると感じた	22	8%	2	6%	2	11%	8	13%	0	0%	1	3%	2	14%	0	0%	6	8%	0	0%	1	33%			
9. 一部の学生は過年度生より授業に熱心に取組んでいると感じた	41	15%	6	18%	2	11%	8	13%	3	25%	3	10%	3	21%	0	0%	13	18%	2	12%	1	33%			
10. 昨年度までと特に変化はなかった	148	55%	22	67%	11	58%	35	56%	8	67%	19	63%	9	64%	1	33%	33	46%	9	53%	1	33%			
11. 全体に熱心に取組んでいると感じた	18	7%	0	0%	0	0%	4	6%	1	8%	4	13%	0	0%	1	33%	5	7%	3	18%	0	0%			
12. 一部の学生は熱心に取組んでいると感じた	20	7%	0	0%	0	0%	3	5%	0	0%	2	7%	0	0%	1	33%	9	13%	3	18%	0	0%			
13. 特に感じるものはなかった	8	3%	2	6%	0	0%	2	3%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	4	6%	0	0%	0	0%			
無回答など	12	4%	1	3%	4	21%	3	5%	0	0%	1	3%	0	0%	0	0%	2	3%	0	0%	0	0%			

質問4. 学生の予習・復習の状況について

	回答数: 269		回答数: 33		回答数: 19		回答数: 63		回答数: 12		回答数: 30		回答数: 14		回答数: 3		回答数: 72		回答数: 17		回答数: 3		266 不明3
	合計																						
	主題別科目		総合科目		一般教育演習		共通科目		外国語科目		外国語演習		文系基礎科目		理系基礎科目		基礎科目(実験)		日本語科目				
人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
14.全体に過年度生より予習・復習に時間をかけていると感じた	15	6%	2	6%	0	0%	4	6%	0	0%	0	0%	2	14%	0	0%	6	8%	1	6%	0	0%	
15.一部の学生は過年度生より予習・復習に時間をかけていると感じた	33	12%	3	9%	0	0%	7	11%	2	17%	5	17%	3	21%	1	33%	12	17%	0	0%	0	0%	
16.特に変化はない	166	62%	26	79%	18	95%	40	63%	9	75%	18	60%	9	64%	0	0%	32	44%	11	65%	3	100%	
17.全体に予習・復習に時間をかけていると感じた	8	3%	0	0%	0	0%	1	2%	0	0%	3	10%	0	0%	1	33%	2	3%	1	6%	0	0%	
18.一部の学生は予習・復習に時間をかけていると感じた	23	9%	0	0%	0	0%	4	6%	1	8%	2	7%	0	0%	0	0%	12	17%	3	18%	0	0%	
19.わからない	13	5%	2	6%	0	0%	4	6%	0	0%	1	3%	0	0%	1	33%	3	4%	1	6%	0	0%	
無回答など	11	4%	0	0%	1	5%	3	5%	0	0%	1	3%	0	0%	0	0%	5	7%	0	0%	0	0%	

質問5. 試験結果等(期末試験・レポート等の成績)から見た全体的な学習成果について

	回答数: 269		回答数: 33		回答数: 19		回答数: 63		回答数: 12		回答数: 30		回答数: 14		回答数: 3		回答数: 72		回答数: 17		回答数: 3		266 不明3
	合計																						
	主題別科目		総合科目		一般教育演習		共通科目		外国語科目		外国語演習		文系基礎科目		理系基礎科目		基礎科目(実験)		日本語科目				
人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
20.全体に過年度生よりも成果が上がった	16	6%	2	6%	1	5%	6	10%	1	8%	0	0%	2	14%	0	0%	3	4%	1	6%	0	0%	
21.一部の学生は過年度生よりも成果が上がった	35	13%	6	18%	0	0%	6	10%	2	17%	5	17%	3	21%	0	0%	13	18%	0	0%	0	0%	
22.過年度生と大きな違いはなかった	140	52%	20	61%	14	74%	32	51%	5	42%	17	57%	9	64%	0	0%	32	44%	8	47%	3	100%	
23. 過年度生よりも成果が上がらなかった	24	9%	3	9%	3	16%	7	11%	3	25%	1	3%	0	0%	1	33%	4	6%	2	12%	0	0%	
24.全体に成果が上がった	13	5%	0	0%	0	0%	2	3%	0	0%	2	7%	0	0%	1	33%	7	10%	1	6%	0	0%	
25.一部の学生は成果が上がった	19	7%	2	6%	0	0%	4	6%	1	8%	1	3%	0	0%	1	33%	6	8%	3	18%	0	0%	
26.特に感じるものはなかった	13	5%	0	0%	0	0%	3	5%	0	0%	3	10%	0	0%	0	0%	5	7%	1	6%	0	0%	
27.成果が上がらなかった	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	
無回答など	9	3%	0	0%	1	5%	3	5%	0	0%	1	3%	0	0%	0	0%	2	3%	1	6%	0	0%	

質問6. 成績評価にあたり、自分の担当した授業科目全体の前年度のGPA値は意識しましたか？

	回答数: 269		回答数: 33		回答数: 19		回答数: 63		回答数: 12		回答数: 30		回答数: 14		回答数: 3		回答数: 72		回答数: 17		回答数: 3		266 不明3
	合計																						
	主題別科目		総合科目		一般教育演習		共通科目		外国語科目		外国語演習		文系基礎科目		理系基礎科目		基礎科目(実験)		日本語科目				
人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
28.意識して評価した	98	36%	8	24%	8	42%	16	25%	4	33%	8	27%	5	36%	1	33%	40	56%	6	35%	2	67%	
29.特に意識しなかった	166	62%	23	70%	11	58%	47	75%	8	67%	22	73%	9	64%	2	67%	32	44%	9	53%	1	33%	
無回答など	5	2%	2	6%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	2	12%	0	0%	

質問7.(一般教育演習、外国語演習等、抽選により履修許可を与える科目の担当の先生へ)学生からも、教員からも、授業を一度受講してから抽選するようにしてほしいとの要望があります。それを実施した場合、履修者の確定が現行より1週間程度遅れ、授業開始から2週間ほど後(概ね2回の授業終了後)になりますが、支障はありませんか？

回答数:	148	回答数:	10	回答数:	8	回答数:	63	回答数:	8	回答数:	19	回答数:	12	回答数:	1	回答数:	18	回答数:	7	回答数:	1	147	
不明1																							
合計		主題別科目		総合科目		一般教育演習		共通科目		外国語科目		外国語演習		文系基礎科目		理系基礎科目		基礎科目(実験)		日本語科目			
人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
30.履修者が決定しないまま2回の授業を行うのは、支障が多い	77	52%	3	30%	4	50%	33	52%	7	88%	11	58%	7	58%	1	100%	7	39%	4	57%	0	0%	
31.履修者が決定しないまま2回の授業を行うことに、特に支障はない	67	45%	7	70%	4	50%	27	43%	1	13%	8	42%	5	42%	0	0%	11	61%	3	43%	1	0%	
無回答など	4	3%	0	0%	0	0%	3	5%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	

質問8.(一般教育演習の担当の先生へ)()内には数字を記してください。)一般教育演習全体の履修者の減少に伴い、履修者がごく少数の演習が増え、教育効果・効率の点で問題が指摘されています。抽選後に履修者が5名あるいは3名以下の演習については、開講中止としてはどうかとの意見もあります。これについてどう思われますか？

回答数:	87
一般教育演習	
人数	%
32.履修者が[]名以下の場合は、開講中止とするほうがよい	52 60%
33.たとえ1名でも希望者がいるなら授業を行うべきと考える	23 26%
34.どちらとも言えない	9 10%

無回答など 3 3%

回答32における人数	履修者が1名の場合開講中止	履修者が2名の場合開講中止	履修者が3名の場合開講中止	履修者が4名の場合開講中止	履修者が5名の場合開講中止	6名～10名の場合開講中止	10名～20名の場合開講中止	
回答数	50	1	2	6	2	30	8	1

総回答数	No.71	No.72	No.73	No.74	No.75	No.76	No.77	No.78	No.79	No.80	不明	合計
	33	19	63	12	30	14	3	72	17	3		

不明分は、科目別回答には反映されていない(合計には含む)。

更新日時

2006/12/1 15:00

「単位の実質化」に関するアンケート

科目別ご意見

主題別科目

質問6: GPAに限らず、成績配分にはいつも気をつけてきた
思ったほど変化はないが、履修者は減少した。キャップ制の趣旨は解るが整備されていない。必修、選択の見直し(削減)が必要
外国人留学生の日本語能力レベルが非常に低く、授業についてこれない
画一的に基準を設けずとも、各授業内容に応じた工夫をすればよいのでは
急にアメリカの真似をするのはいかがなものか。しかし、はじめたからには全体責任なので努力すべきであり、かんたんに後戻りすべきではない
学力より覇気の減退が著しいようだ。講義中の反応の小ささが顕著。全学的なやる気の低下に向かう危険を憂慮
学生が半分に減少、オムニバス形式では予習復習がなじまない
聴講によって興味を示す場合もある。実質化が教育にプラスかは不明
TAがいれば宿題やテストをしたかった。100名以上いると1人では困難
開講科目が多すぎる上時間が重なって受講者数が少ない。学生の興味喚起には時間がかかるので、教育の本質なのだからカリキュラム再考を
上限に達している学生の聴講を許可した。制度の厳格化は学生の意欲をそく恐れがあると感じる
上限設定は無意味であり効果もないと思われる
去年より履修者が減った。これをより生かす授業をしたい
授業は通年で行うが2学期は受講生が極端に減少するため、考慮しにくい
全体には学力の上下は感じなかった

総合科目

質問7: 支障はあるが、3週くらいほしい
上限設定の廃止を希望。生活習慣を啓蒙する意味のある科目で、多くの学生に聞いてもらいたい(例年400人40人)(別紙あり)
質問3: 一部の学生は過年度より熱心に取り組んでいない(項目不足)
上限が厳しいので履修者が減少(50-30程度)。複数教員からモチベーションが下がるとの声。履修届けを出さず聴講だけの学生が増えた
一般教育演習以外でも履修者が少なければ中止や整理し効率アップを
やる気ある学生の意欲を殺している 質問3: 著しい熱意の低下を感じた
履修者の顕著な減少あり。活気が低下した側面も。履修しないが聴講したいという学生がいたので、興味より得意分野優先の傾向か
05年度までは150人が40人に減少。その中で真面目に受けているのは10人強くらい。卒業に単位を必要とする2,3,4年生を除けば1年は半分程度だろう。せっかくの実質化措置をとった全学教育でこのような状態は皮肉

一般教育演習

実質化は法律に基づいている。ほんとうに講義時間と同じだけ予習復習は必要か? 画一的講義がいい授業かは疑問
質問7: 現行でも一度受講後に提出できるよう心がけている
質問8: 教員の判断で中止してもよい、とするのはどうか。「単位の实質化」意味不明
質問7: 抽選で第二希望に割り当てられたら辞退して他科目を受講できる道をつけてほしい。上限のため割り当て科目を破棄できないと他の抽選なし科目が履修できない
実質化は良いこと。一般教育演習は現状のように開講すると無駄になるので、数を減らしたほうがいい
質問5: 新たに導入した科目なので比較基準がないが、学生は真面目に取り組んでいるという印象。 質問8: 初回授業は60人以上。抽選に外れても履修許可を求めた者もいた。 実質化と上限設定は良心的な考え方と思う。あとは教員がどれだけ学生へ課題を出し、評価を得るか。教員の仕事量は増えるが真の教育のためならそれも必要

履修数減で予復習が増えるわけではないから宿題を出し返却をしなければならず、学力差が大きいと個別対応になり、50名を超えれば困難。実質化は教員の意識(授業設計)に依存するのでは。TAを活用したいが現状では無理。履修制限は授業の要求度によってかかるものであり、最終的な責任は学生にあると思う。教員の目標と違う学び方の自由もあるべきでは。GPAは必修と必要単位数のみで計算するほうが良いと思われる。制限をかけると省力化につながる可能性が
質問8: 異性1名の場合。答えにくい。履修者数は記憶なし。 質問7: 一度受講してから抽選する方法になぜ変更? 頻繁に変わると学生も教員も迷惑。受験者全員に面接し教育市外のある学生を選抜するほうがよい
各教員に周知のため繰り返しアピール必要
履修者が減って驚いたが熱心な学生がほとんどでよかった。ショッピングタームは一回にして、受けるか真剣に決めて脱落しないようにすべし。GPAは少人数で高めになっても許してほしい
質問4: 項目がおかしい。明らかに悪くなった。質問5: むしろ時間をかけなくなった。質問7: 抽選はやめるべき。教員に任せるべき。学生は読書やレポート提出を回避する傾向にあり。安易なほうへ流れている。実質化は悪化
質問7: 事前に開講人数を教員に判断させてはどうか
踏み込んだ調査が必要。システムだけ変わると学生が迷惑する。質問8: 内容によって決めるもの
質問8: 1名なら次年度以降開講しないことを考える
実質化のための制限は基本的に賛成だが、時間数の意味については再検討が必要
学部GPAを上げるため秀優の乱発があるので、割合に違反したら再提出させてはどうか。進級や卒業に認定しないが成績簿に記載する履修を認めてはどうか。前期20単位以上履修者は意欲があるので後期も増やせる仕組みはどうか。1年で一定単位以上履修すれば2年の上限をはずしてはどうか
現状では一般教育演習の意義がない。理・工・農は上限のため選択はほぼゼロなのに開講コマ数を見直していない。3名では学生の意欲がなくなる
上限設定は無意味であり効果もないと思われる
質問8B: 4科目で29人
他大学との共同授業のため、実質化を考えるのは難しい
大学は本来学ぶ場で、自主的なもの。実質化、復習制限などは強要に見えて反対。
質問3&4熱心でない生徒が増えた。質問5: 一部は下がった

共通科目

上限設定は問題が多い。履修が容易な科目に集中し、単位がとりにくければ敬遠される。(例: 理の統計学)
以前からクラス外のテーマ研究をさせており、負担が大きいが積極的な者が受講
複数の非常勤講師とTAの授業で実質化を図るのは難しい

外国語科目

質問8: 毎回課題を出したら半分になったが残りの者には学習効果を感じた
外国語演習は5名程度が最適
学生のレベルが広がり、予想外に下の者が入っている。実質化には補講などをして基礎力を上げることが必要。
質問5: 上下のばらつきが多くなった
実質化は以前から意識しているので違いは見られない。学力低下の要因は外国語科目の単位数削減。外国語能力の低下はたいへん憂慮される
質問7: やりにくいのは確かだが、シラバスだけで判断させるのは問題。質問8: 開講中止の意味が解らない。マニアックなものや厳しいクラスに受講者がいなかったとしても、部局としての責任はどうなるのか。単に中止では済まされない
初級に配分された学生や再履修の学生の心理的悪影響ややる気のなさを懸念する声もあったが、自分はむしろ支えあっているように感じた。レベル別でも実質化は行われている
上限設定は不要。学生の意欲をそく。科目が減ったからといって予習復習をしているかは疑問。成績が二分化し中間が減少。下位が増加の傾向
実質化をどう学生に説明しているか知りたい。新しい試みの意図が教員に十分伝わっているとはいいがたい。現場の声が反映されている様子もない。相互のコミュニケーションの改善が必要

質問 8:6 名中2名高校生
初年度ということもあり、答えづらい質問
具体的でわかり易い説明がほしい
英語 を担当。学生の質は去年と大差なく、実質化を気にせずいつも通り評価
英語 担当。学部によって出来不出来の差が大きいため、実質化は苦慮

外国語演習

外国語科目は専門の教員が担当すべき。時間割上の調整が一層重要になるため、できるだけ時間を分散させるべき
実質化は個人的に以前から工夫しているため、その意味で変化なし。むしろ「評価せず」廃止、上限設定、リタイアを認めない仕組みなど、マイナス面が大きい。質問7:一般にもクーリングオフやお試し期間があるのを考慮すべき。質問8:「効率」と「教育効果」は別レベルの問題。専門教育では3名以下などという事は当然のようだが、全学も同様に必要な教育は行うという理念が求められる

文系基礎科目

登録して全課題未提出の場合は不可でなく未履修にすべき
趣旨を理解していない教員がいるのが問題。宿題を出すと評価に手間と時間がかかりすぎる

理系基礎科目

高校での既・未履修者が混在する理系基礎科目を担当しているが、学生により授業以外に要する時間が大きく2分され、単位の実質化が困難。既・未履修者が混在しないクラス編成を希望
質問5:試験結果等短期的でなく、長期的な意味で学生には良いこと。「実質化」でなく「GPA制のクラスによりバラつきをなくす」に反対。大きな弊害あり。工と農を複数年担当したが、意欲、成績、授業態度などまったく異なり、他の先生でも同様に成績判定していた。(低いクラスは低く、高いクラスは高く)従って、バラつきのあるほうが実態を反映、なくすと同じGPAでもレベルが異なる。目標をクラスごとに変え、到達度で評価すればバラつきはなくなるが、良いのか
「単位の実質化」はあたりまえ。取り組んでいなかったら大学教員の怠慢。実行できていなかった大学の体質改善が重要
質問 6:一部は過年度生より予復習に時間をかけていない印象。 ・上限設定に新たな例外科目は反対。必要なら必修化、学生に希望されるよう充実を図るべき ・履修者が少なくとも開講すべきだが、次年度以降は要再検討 ・今年度履修者が減少の科目は継続の可否を検討し、抽選科目は開講増加すべき。同一担当が2コマ提供してもいい
学生に時間的余裕が生まれ、学習効果を生んだと思う。一方で一部学生の学習能力低下が見られ、単位取得が困難に(格差が引き立つため)。質の出口制御にはよいが、大量の留年者の対策をしたいところ
上限設定をしてもすぐ効果が出るかは疑問。年度ごとの学生の質のばらつきの範囲内
GPAの向上は成績判定前に理系のGPAが低いこと、優良可の比率を目標値に近づけるなど通達があったからでは?クラスのレベルが低くても一定の比率で成績をつけるのは不合理
2年対象で必修でないためか数が1/5に減少。興味のある学生と、単位を落とした学生に二極分化したため、後者に合わせるしかなかった。「単位の実質化」で大学らしい授業がなくなっていく気がする
下限を満たすかのチェックを厳しく行えばよいこと。上限設定で将来の天才の目をつぶす恐れがある
1)再履修クラスも数によって開講を中止すべき。最履修者は成績の基準を決めておかないとGPAに問題が出る。同じ試験をすると一度不可のもののGPAがあがるという矛盾が起こり得る
全学教育は雑学であることに意義があるので、実質化の意味がわからない。むしろ有害と考える
質問1:初年度なので判断不可(他の回答者の「その他」共通理由)
基礎地学担当。受講者数に影響があったようだが、プラス評価
学力低下を心配したが逆だった。毎回出欠確認、宿題提出が良かったかも、努力しているが、いいかげんな教員もいると聞く。講義の質を管理して欲しい
必要学習時間は学生によって違うはず、杓子定規の割り当ては違和感
質問3と4は設問がおかしい 3:多くが集中していない、理解力が落ちていると感じた。4:意欲が低下。予習復習しているとは感じられない

質問4:かけていない。予習復習させることに意味を感じない
出席率 100%近く、よかった
生物学は教科書を利用した効果の様子を見る必要あり
配慮しなければ、と反省
100名近い受講生の全学教育科目で質を問うのはおかしい。大学は理解することを重要視していないのでは
基礎科目、外国語等の実質化は望ましいがオムニバス形式は多数の学生の参加が欲しいので例外化してもよいのでは
学生を甘やかす今の方針では実質化は期待できない。不可が何%以上はダメと言うなら諦めるべき
質問4:今の学生は予習復習の時間をかけていない
学生に説明の必要がある。ほとんどの学生が予習の必要を感じていない
理では進振りの際、専門科目にウェイトをかけることがあるが、上限設定もあり、一般教養(選択)をあまりとらなくなるのが予測され、問題になるのでは。質問5:ガイドラインを教官が守った効果か。学生の努力の効果ならよいが
教員が忙しくなり、教育に集中できないのは問題。教育評価をきちんと行い、教育の貢献に重きを置く評価法を導入すべき
上限設定のため履修者が激減したクラスがあり、知識の欠落が出る不安。学生の興味に応じて適当に配分すべき。機械的に予習復習の時間を割り振っても現実離れする。過度の上限設定は反対。質問5:採点基準の変更で成績の平均は上昇した
成績評価割合の統一を余儀なくされ、従来の秀が優より上という意味が変化。米国に倣ってGPAが低い学生は低いレベルの大学へ転学させるべきでは

基礎科目(実験)

学生にどれだけ浸透しているか不明
中学高校大学受験と偏差値付けで来たのに、大学や大学院でも同じ概念で割合で成績をつけるのは間違っていると思う
質問5:過年度生はいなかった
担当した自然化学実験は新設科目。単位の実質化の意味はあると思う。質問7、ぜひ実施すべき。講義能力のない教官は退場すべき。改革に期待

日本語科目

質問2:取り組んでいたが、やめた(意見参照)。質問3:留年を続ける意欲に乏しい学生がいなかったので、前よりよく見えた。意見:学生は予習をしない前提(参考文献:宇田光『大学授業の改革』)で授業をしている。私費留学生はバイトに忙しく、意欲にも乏しい者もいるような現状では集中できる授業設計のあり方があってもよい

不明

複数教員担当の講義では予習のやりようがない科目がある
TA,図書館、事務、FD等のシステムが整備されていない、教養と学部の連携もない状態で授業スタイルと評価のみ欧米的にしても無意味。教員の負担を強要し、モチベーションが下がる。意図を把握している教員の数も疑問。(前門無回答)

長文のご意見については要約させていただきました。

2006年12月1日現在